

平成29年6月25日(土)

老球の細道337号

エースプレイヤーの怪我

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今年のNBAプレイオフ決勝戦はゴールデンステイトウオリアーズの優勝で終了した。決勝に残った東西地区の2強にスパズとセルティックスが対抗馬として面白い決戦が期待されていたが、スパズ、セルティックス共にエースプレイヤーの怪我で番狂わせは起こらなかった。エースプレイヤーに加わる負担は想像を絶するものがある。

NBAから話は身近になるが、今年の福島県インターハイ予選では、優勝候補の一角福島西高校がエース4番の第1ピリオド肩脱臼というアクシデントに見舞われ、伏兵の安積黎明高校に敗れる番狂わせが起こった。エースプレイヤーがゲーム中にケガで戦線離脱するという事はコーチにとって最大のパニックである。インターハイ出場のかかった非常に大事なゲームで福島西の選手と渡邊コーチはどのように最大の危機を乗り越えるか興味を持って観戦したが残念な結果に終わってしまった。しかしその後、渡邊コーチは気落ちすることなく、いつもの熱いコーチングで選手を鼓舞し、あきらめることなく手を変え品を変えて最後まで戦ったことは賞賛されるだろう。

「試合勝負の4原則」なるものがある。手前味噌であるが長年の経験から導き出した原則である。今回のインターハイ県予選での福島西高校や会津高校エースの怪我場面を目の当たりにして改めて考えてみた。

- ①試合は最後の最後まで勝敗はわからない。ブザービーターの大逆転などよくある。
- ②試合は戦ってみないと勝敗はわからない。番狂わせは勝負の世界の常。名前負けするな。
- ③実力には幅がある。調子の良いとき悪いとき、怪我人がいるいない等でチーム力は変化。
- ④試合では何が起こるかわからない。特にエースのファールアウト、怪我。

今大会で起こった第4原則の「エースの怪我」に対しては、どのチームにでも起こりえる可能性があることを肝に銘じなければならない。そして、普段からエースが離脱(怪我、ファールアウト、退部等)したことを想定しながら、それに代わる選手の育成とエース不在時の戦略、戦術のバリエーションなどを準備しておかなければならないだろう。ゲームマネジメントの危機管理でコーチの大切な仕事になる。

エース不在によるチームの戦力低下は避けられないが、困難な時こそ創意工夫の出番である。ピンチをチャンスに転化させるプラス思考もまたコーチの重要な仕事となる。落ち込んでいる暇はない。考えることをあきらめてはいけない。エースの怪我がチームの団結を一層強固にすることがある。エースの代役で使われた選手が意気に感じ、エース以上の活躍をすることもある。コーチのプラス思考でプラスの副産物をたくさん創り出すことこそコーチ冥利につきる。

私見であるが、怪我は調子の良い選手に起こりやすい。エースは最も危険である。なぜか、ゲームで長時間出場するため疲労が蓄積しやすい。疲労の蓄積が怪我を誘発する。さらに、調子の良い選手は無理をする。そのためアクシデントが起こる。調子の悪い選手はあまり怪我をしないのが常である。なぜなら、コートにいる時間も短いし、無理もしない。

「怪我也実力のうち」というスポーツ格言があるが、普段の練習から選手の障害や疲労などを熟知しながら、アクセルとブレーキを適時使い分けるコーチングが求められる。